

成蹊会誌 62

1985年12月



吾等讃えん
その名成蹊

成蹊学園近況

(成蹊学園
総務課提供)

◇成蹊大学公開講座の開催

本年度も「私達の生活を考える Ⅲ」として昨年度と同じテーマで、十月十二日から五回、毎回土曜日の午後二時から四時までのとおり開催しました。

「INSモデルシステムとキャブテン」

—高度情報通信システムとニューメディア—

工学部教授 窪田 啓次郎

「遺伝子とはどんな物質か」

東京大学工学部教授・本学非常勤講師 三浦 謹一郎

「自然と生活…日本とアメリカ」

文学部教授 中井 義幸

「住民福祉とこれからの地方財政」

—地方行財政改革はなぜ必要か—

経済学部教授 肥後 和夫

「市民生活と裁判所」

法学部教授 萩澤 清彦

テーマが身近であることと、講座も三年目を迎え、受講者は大学生から九十歳のお年寄りまで幅広く、居住地域も地元武蔵野市をはじめ都内各地および近県におよんでおり、延六八三名の方々が聴講されました。

◇ユネスコ国際青年年エッセイコンクールに入賞

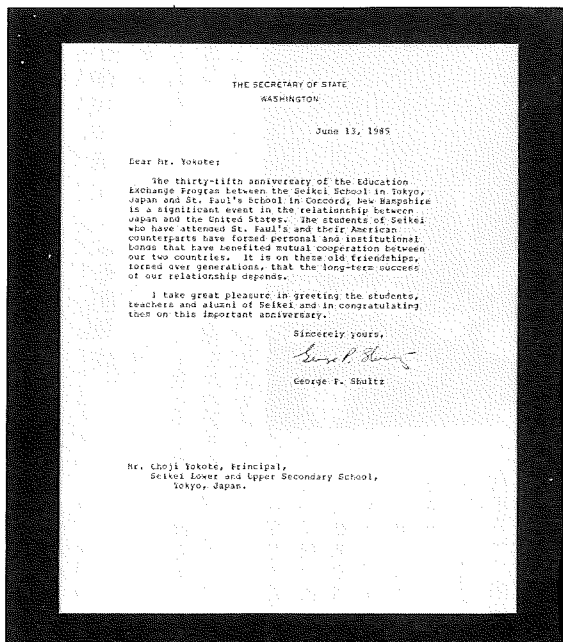
去る四月二十四日ユネスコ国際青年年(ITYY)エッセイコンクール(日本ユネスコ協会連盟、毎日新聞社主催、テーマ『平和を維持

システムの導入により、今までのTSS端末装置機能に加え、パソコンとしても使用できるようになり、またタイム・シェアリング・システム、グラフィック・ディスプレイ……等々最新の技術が採り入れられています。

(成蹊大学事務部)

◇シュルツ米国務長官からの書簡

ご高承のように、中学・高等学校では、米国ニュー・ハンブシャー州コンコードのセントポールズ校と留学生の交換を行っています。同校は、その卒業生の多くをハーバードその他一流大学に送ってい



し、強化するために——青年達からのメッセージ——で全国からの応募作二三一編の中から本学の野島倫之君(経済学部四年)の作品が特選に入賞、七月スペインのバルセロナで開かれたユネスコ主催の「世界青年会議」に派遣されました。

◇豪州国立大学長、アジア太平洋研究センターを訪問

去る六月七日オーストラリア国立大学(ANU)のピーター・カール学長夫妻とドライスデール教授(同大学豪日経済研究センター所長)が成蹊大学を訪問され、アジア太平洋研究センターとの懇談会がもたれました。国際的な学術交流の推進のため、去る三月に朝倉孝吉学長がオーストラリアに行かれた際、ANUも訪問され、これが縁となってカール学長の本学への訪問となったものです。研究センターは、国際的な学術交流に意を注いでおりますが、その中でも特にオーストラリアは重要な位置を占めております。カール学長は、オーストラリアの将来にとって日本やアジア諸国との関係緊密化は不可欠であると述べ、日豪両国間における知的交流の重要性を強調されました。国際的に開かれた大学をめざす成蹊大学としても、オーストラリアやアジア諸国との交流を重視しており、今後は両大学間で研究協力ができる分野については積極的に検討するというところで双方の意見が一致しました。

◇情報処理センターに新機種導入

利用者からの「より高機能・高性能の電子計算機を」等の要望に応え、本年十月から従来の MELCOM COSMO 700 型計算機システムを新電子計算機システムに機種変更することになり、FACOM M-360 電算機システムを導入することになりました。この計算機

る、米国で最も優れたプレップ・スクール(大学進学への準備教育を施す中等学校)の一つです。そして、昭和二十四年榎原稔君(旧高二十三回 現米國三菱商事副社長)の同校留学が契機となって開かれた成蹊・セントポールズの交流は、昨年で三十五周年を迎えました。これを記念して安倍外務大臣から同校に感謝状が贈呈されましたが、このことは、成蹊会誌六〇号に詳しく紹介されています。

今年八月、チャールズ・クラーク先生(前イェール大学神学部副部長)が現職のセントポールズ校長として初めて成蹊を訪問されましたが、その際、前記安倍外務大臣の感謝状に対する答礼の意味もこめて、シュルツ米国務長官から横手校長に宛てられた書簡(写真参照)が伝達されました。以下は添付されていた日本語の訳文です。

「貴校がこのたび、セントポールズ校との間における、教育交流計画開始三十五周年を迎えられましたことは、日米両国の友好関係促進において、特筆すべき出来事であり、セントポールズで学ばれた貴校生徒諸賢、並びに東京に赴いたセントポールズ校生徒諸氏は、それぞれ、日米間の相互協力推進に益する、数々の公私に亘る絆を結ばれました。幾世代も費やされ、築き上げられたこれらの絆こそ、日米両国の友好関係を持続、発展させるいしずえとなるものであります。この場をお借りして、貴校在校生、教職員、及び卒業生諸賢に御挨拶させていただくと共に、実り多い三十五周年を心からお祝い申し上げます。」

成蹊・セントポールズの歴史は今年で三十六年になりますが、最初の三十年間は専ら成蹊の出身者がセントポールズに迎えられたという一方交通的なものであり、成蹊の方で同校からの生徒を留学生として迎えることは、まだその緒に就いたばかりです。この時に当って、シュルツ米長官からの書簡は、これを励ました言葉と受けとめて、今後両校の一層緊密な協力・友好関係を築くための努力を重ね

たいと考えております。ご関係の方々の今後のご支援をお願い申し上げます。(中島 知 中学・高校総務主任)

◇小学校卒業生による座談会

——創立七十周年を機に——

大正四年創立の成蹊小学校は、今年創立七十周年を迎えます。その記念として、卒業生による座談会を次のように催しました。
◆第一回座談会 「池袋時代の学校生活をめぐって」



六月十三日、成蹊小学校で次の方々の参加を得て行いました。井上耐子(第一回卒)、田中博次(第三回卒)、三好道矢(第四回卒)、宗像英二(第四回・中退)、島村弥彦(第五回卒)、浜田 好(第五回卒)、森 桃江(第五回卒) (敬称略)
当日は、生憎の雨だったにも拘らず、参加予定の方全員お揃いになり、谷岡氏の司会で、予め小学

校でお願いしておいた話題を中心に、和やかなうちに活気溢れる話し合いが進められました。その抄録は、PTA教養部こみち通信の係の人達が、依頼した専門の速記者の記録から、かなりの時間と手数をかけて立派につくられ、「こみち通信二七号」に載せられています。

話題になったものの中らいくつかを紹介しておきます。
。狐塚、浮間ヶ原、立教の原、哲学堂、岩崎先生や今村先生の屋敷、三溪園、小石川の植物園、所沢の飛行場などへの遠足や見学。
。一流の落語、講談師(細川風谷)、手品師(バスター・キートン)のこと、講演には、東京市長・田尻稲次郎氏、総持寺管長・新井石禅師が来られたことなど。
。先生方も一流で、植物の牧野先生、剣道の橋本先生、英語は津田塾出身の先生等々に教わったこと。
。板の間で正座して行く凝念のとき足が痛かったこと、断食のつらかったこと、その体験が後日生かされたこと。徹夜会、封筒貼り、日記のこと。

。成蹊にいた秀才、飛び級のこと。飛び級や英才教育の後日談。
。常に十年も二十年も先を考えておられた中村先生のこと。また、草取りのときは「根を掘って抜きなさい。」と言われたこと等々。
。現在成蹊小に勤めている私たちは、それらいろいろな行事の底に流れている精神を今日的に引継がなければという思いがしました。
◆第二回座談会 「吉祥寺移転頃の学校生活をめぐって」
十月八日、参加して下さった方々は次の通りです。(於学校)
中村武嘉(第八回卒)、小原正弘(第九回卒)、大島 篤(第十回卒)、伊臣真子(第十一回卒)、水谷政静(第十二回卒)、池田 弘(第十三回卒)、小池八重子(第十四回卒)、谷岡喜久蔵(第十五回卒・司会) (敬称略)

この座談会記録は、前回同様PTAこみち通信の係の人達によって、「こみち通信二八号」に抄録される予定になっています。この日の話題からいくつか拾ってみます。
。先生達の変動。五月開校時の仮校舎での二部授業のことなど。
。新しい校舎(現本館)、小・中・高一緒だった昼食。
。和組と中村先生の先取的な試み。飛び級の秀才。
。中村先生の亡くなられたときの想い。やさしかった思い出。
。毎日の校外遠足は池袋時代より減ったこと——広い学園内の遊び現在の成蹊小に望みたいこと。等々

(木村 定司・小学校長)

◇学園諸施設の充実

- 一、中学校部室改築
啓行門裏のプレハブ製部室が老朽化した為、鉄筋コンクリート造二階建四八八平方メートルに改築しました。
運動部・文化部の倉庫、男女の更衣室、ミーティングルーム、シャワー室、便所が含まれています。
- 二、小学校グリーンベルト
小学校中央館前に七〇〇平方メートルのグリーンベルトを設けました。
直径四メートルの噴水、水飲場ベンチ付長方形の花壇三つ、ポール、植木、生垣を配し、景観を一新しました。
- 三、樺並木沿い擁壁の改修
樺並木に沿っている擁壁の一部が傾いたり、生垣が空いたりしてきた為、正門から西門まで補修をすると共に、構内側に新しく延長四五〇メートルの擁壁を設け、フェンスを立て、植栽をしました。

昭和61年度 学生・生徒・児童募集案内

学 校・学 部	募 集 人 員	願 書 受 付 期 間	入 学 試 験 日	合 格 発 表 日
大 学	経 済 学 部	400名	2月21日(金)	2月28日(金)
	工 学 部	280名	1月14日(火)	2月25日(火)
	文 学 部	390名	1月31日(金)	2月26日(水)
	法 学 部	350名		3月1日(土)
高 等 学 校	約90名	1月27日(月) 1月31日(金)	2月18日(火)	2月20日(木)
中 学 校	男子 約80名	1月21日(火)	2月1日(土)	2月3日(月)
	女子 約30名	1月24日(金)		

※高等学校海外帰国子女、2年編入、小学校3年編入および国際特別学級(小・中)の入試日程の細目については、当該学校事務室にお問い合わせください。
なお、小学校入試は11月6、7日に行われました。

成蹊会報告

昭和60年5月11日
昭和60年10月31日

一、会 議

○理事 会

第92回理事会(5月27日)

(1) 昭和59年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

(2) 財産目録(昭和60年3月31日現在) 承認の件

(3) 成蹊会 特別会員(教職員) 推薦の件

(4) 成蹊学園 維持会委員(卒業生関係6名) 推薦の件

第93回理事会(7月29日)

(1) 成蹊会 会長・副会長・常務理事互選の件

(2) 成蹊会 特別委員会委員選任の件

(3) 第27回謝恩顕彰会開催の件

○評議 員 会

第32回評議員会(6月27日)

(1) 成蹊会 理事並びに監事選任の件

○会 員 総 会

第30回通常会員総会(6月27日)

(1) 昭和59年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

(2) 財産目録(昭和60年3月31日現在) 承認の件

(3) 昭和60年度事業計画及び収支予算案承認の件

(4) 成蹊会 評議員選任の件

○特別委員会

成蹊クラブ委員会(5月20日)

財務委員会(5月22日)
育英奨学委員会、学術・教育研究委員会(5月23日)
広報委員会(5月31日)
育英奨学委員会、学術・教育研究委員会(7月3日)

○同 窓 会

小学校幹事会(6月20日) 旧制高校委員会(9月2日)
プレメ幹事会(6月25日) 文学部委員会(10月5日)
文学部委員会(7月4日) プレメ幹事会(10月18日)
文学部委員会(7月6日) 成蹊会会長就任パーティ
経済学部委員会(7月26日) (10月21日)

○支 部 会

千葉支部会(7月6日)

日本学術会議会員(第十三期)

新井益太郎(特別会員) 成蹊大学教授(商・経営)
井上 英二(小 16回) 東京大学名誉教授(病 理)
石原 智男(旧高17回) 学術振興会監事(機 械)
埴原 和郎(旧高21回) 東京大学教授(人 類)
上飯坂 実(旧高18回) 東京大学教授(林 学)
鎮目 和夫(旧高16回) 東京女子医大教授(内 科)
田丸 謙二(旧高17回) 東京理科大学教授(化 学)
高橋 信孝(旧高22回) 東京大学教授(農芸化学)
向山 光昭(旧高19回) 東京大学教授(化 学)
吉武 成美(旧高20回) 東京大学教授(蚕 糸)
(敬称略・本会調べ)

二、人 事

○会長・副会長・常務理事(7月29日・第93回理事会)

会 長 生野 専吉(旧高6回)

副会長 進藤 次郎(中学2回) 永井 邦夫(旧高8回)

高橋 靖(政経6回) 梶谷 玄(高校4回)

常務理事 谷岡喜久蔵(旧高11回)

○理事・監事(6月27日・第32回評議員会)

○印理事・評議員(兼任) 二十九名

△印監事・評議員(兼任) 三名

無印評議員 (総数) 八十三名

○青葉 翰於(実務8) 赤羽 紀武(医歯7)

赤星 平馬(旧中8) 芥川 鐵男(高校5)

朝倉 孝吉(旧高16) 浅田 衛(経 3)

栗飯原景昭(旧高20) 井原 一雄(高校7)

○井本 農一(旧高6) 伊集院 董(旧高12)

伊東 明(専門3) 伊藤 和敬(法 2)

碓本 勘二(高校8) ○碓本 博(経 1)

池田 重隆(旧高17) 池田 孝夫(高校10)

○石坂 泰彦(政経1) 石崎 誠一(高校6)

板倉 喜一(小 22) ○今村 知雄(旧高10)

○岩崎英二郎(旧高15) ○岩崎 寛弥(旧高23)

○小川 孝一(経 2) 小野 宗一(旧高2)

○大島 篤(女 11) 大島 庸元(工 2)

○岡田 健(工 2) ○加藤 俊秀(工 4)

加藤 英夫(旧中2) 筈木 俊(経 1)

○梶谷 玄(高校4) 梶谷 剛(政経8)

北畠 裕子(女 22) 吉良 艶子(文 14)

久保 盛唯(旧高24) 倉島 喜一(文 4)

栗原美能留(旧中4) ○桑田 桂子(文 1)

○河野 義克(旧高6) 酒井 四平(政経2)

○篠原 周平(政経2) 柴山 豊(医歯1)

○島田喜久子(女 17) ○嶋田 正哉(法 1)

○生野 専吉(旧高6) ○進藤 次郎(旧中7)

菅原 作蔵(専門5) 鈴木 昭郎(政経10)

住田 俊一(旧高14) 園田 信行(政経4)

高田 亨(実務11) ○高橋 靖(政経6)

高橋 道哉(工 11) 高橋 元雄(実務8)

○滝 正明(小 10) ○谷岡喜久蔵(旧高11)

○丹治 道生(旧高4) 力石 浩(法 3)

中島 博次(医歯1) ○永井 邦夫(旧高8)

橋本 竹夫(工 5) ○畑田 正樹(法 1)

浜中 泰男(法 1) ○林 醇一郎(工 1)

原田 住江(小 19) △平塚 保明(旧高1)

平本 勉(法 4) ○布川 純子(文 9)

藤田 暉夫(政経3) 松沢 裕一(政経8)

松平 一郎(旧中9) 水谷 政静(旧高9)

○宗像 英二(旧高1) 村上 藤太(旧中5)

室橋 俊樹(高校19) 森 一也(政経6)

△森 新太郎(旧高1) ○安田 敬一(政経2)

△山中 良平(政経6) ○山本 龍二(医歯1)

○山本 良介(高校4) 湯川 佳宣(医歯4)

理事・監事の任期（60年7月14日～62年7月13日）
 評議員の任期（60年6月27日～62年6月26日）

○特別委員会委員（7月29日・第93回理事会）

○印 委員長

△印 副委員長

財務委員会 十名

石坂 泰彦（政経1） 小林 榮（旧高16）

△高野 健次（旧高17） 高橋 靖（政経6）

内藤 薫（旧高12） ○平塚 保明（旧高1）

牧田 祐治（政経2） 皆木 肇（旧高23）

森本 隆（旧高16） 渡辺 昌郎（政経2）

育英奨学委員会 十名

△粟飯原景雄（旧高20） 新居 嗣朗（高4）

○井本 農一（旧高6） 伊集院 董（旧高12）

岩崎英二郎（旧高15） 小原 正弘（旧高5）

兼子 仁（高校4） 佐藤 敏雄（政経9）

前沢 三郎（工1） 三好 道夫（旧高1）

学術・教育研究委員会 十名

粟飯原景昭（旧高20） 新居 嗣朗（高校4）

井本 農一（旧高6） 伊集院 董（旧高12）

△石原 智男（旧高17） ○岩崎英二郎（旧高15）

小原 正弘（旧高5） 兼子 仁（高校4）

城戸 毅（高校5） 三好 道矢（旧高1）

成蹊クラブ委員会 十名

岩佐 威（政経2） 菅野 建雄（政経13）

桜井 治（政経1） 斎藤 敏夫（政経2）

渋谷 栄一（旧高24） 滝 秀彦（政経9）

沼野 昌平（政経1） △福田 恒雄（政経1）
 ○森 新太郎（旧高1） 山本 良介（政経6）
 広報委員会 十名

○石坂 泰彦（政経1） 小島 明（政経4）

小島 勉（政経2） 園田 信行（政経4）

高橋 靖（政経6） 広瀬 正弘（高校4）

藤田 暉夫（政経3） 松田 直子（女28）

森 一也（政経6） 山本 亨介（政経3）

委員の任期（60年7月29日～62年7月28日）

三、催 事

旧制成蹊高校開校六十周年記念パーティー
 （7月20日・成蹊学園）

第25回日本賽歌祭参加（10月5日・日比谷公会堂）

第27回成蹊会謝恩顕彰会（10月9日・成蹊クラブ）

回顧録旧制成蹊高等学校（7月20日）

四、刊 行 物

第61号成蹊会誌発行（6月1日）

回顧録旧制成蹊高等学校（7月20日）

旧制成蹊高等学校同窓会発行

（A5判・三〇六頁）

文学部は昭和六十年、創設二十周年を迎えました。そこで第十四回懇親会を記念同窓会として開催する運びとなりました。皆様お誘いあわせの上多数ご出席ください。
 月日：昭和六十一年四月六日（日）一時～三時
 場所：学内学生会館三階教職員食堂
 会費：二、〇〇〇円

昭和60年12月1日
 編集兼発行人 谷岡喜久藏
 発行所 社団法人成蹊会
 〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
 電話 0422・51・2244